

I. 平成24年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成19年11月～平成25年10月

1. 概況

平成24年度においては、平成23年10月に官民が一体となって支援することで新たなスタートを切った集客拠点施設 Sky Plaza MISAWA を核として、中心市街地活性化に向けて取り組んだ。

Sky Plaza MISAWA は、積極的に広告や集客イベントを実施した結果、市内はもとより周辺市町村からの誘客が増加し、着実に業績を伸ばし続けている。「米軍基地、アメリカ、インターナショナル」に特化した店づくりを推進したことで、当市基本計画の目標である国際色を愉しめる中心市街地を演出する店舗となった。また中心市街地誘客イベントを多数開催するなど、中心市街地集客拠点施設としての役割を果たしつつある。

また、平成24年度より三沢市雇用創造推進協議会が厚生労働省の委託を受けて実施している「地域雇用創造推進事業」においては、事業の一部で地域づくりの気運を高めるための事業を実施した結果、新たな市民団体が立ち上がり、新規イベントを自主的に開催するなど、地域活性化への気運が高まった。

2. 目標達成の見通し

目	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
国際色を愉しめる 賑わいあふれる 中心市街地	休日歩行者 通行量(人)	4,234 (H17)	7,016 (H24)	5,128 (H24)	③	③
	小売業年間 商品販売額 (百万円)	14,623 (H16)	15,161 (H24)	10,089 (H24)	③	③
安心して生活し 続けられる 中心市街地	中心市街地 居住人口 (人)	7,538 (H18)	7,732 (H24)	7,001 (H24)	④	④

- 注) ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。  
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。  
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。  
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①「休日歩行者通行量」について

以下の理由により、数値目標の達成は可能であると見込まれる。

- Sky Plaza MISAWA は順調に業績を伸ばしており、集客イベントを企画・実施するなど、中心市街地の集客拠点施設としての役割を果たしつつあるため。
- 新たな市民団体が立ち上がるなど、まちづくりの機運は高まっており、今後においては

それぞれの団体とを結びつけることにより、より一層のにぎわい創出が見込まれるため。

## ②「小売業年間商品販売額」について

以下の理由により、数値目標の達成は可能であると見込まれる。

- Sky Plaza MISAWAを平成23年10月にリニューアルし、当初のコンセプトであるアメリカンテイストをより色濃く打ち出した営業形態にシフトした。その結果、平成24年度は前年度比2.25倍の売上額となった。
- 中でもSky Plaza MISAWAが直営で管理運営しているブースの売上は約5.9倍となっており、このようなことからアメリカンテイストをテーマとした経営体制が顧客へ浸透し始めていると考えている。今後はこれまでの取り組みをより向上し、その効果を中心市街地全体に波及させるよう事業展開していきたいと考えている。
- 市内の地域づくり団体が当該地域の空店舗活用やイベント開催に取り組み始めたことで、街づくり活動に理解を示す事業主が徐々に現れ、これまで店舗活用に関心の低かった方々が空店舗の活用に門戸を開くようになってきている。
- 平成24年度より地域雇用創造推進事業を活用して中心市街地を含む市内の事業主の経営改革や意識啓発を支援する活動を展開しているが、そのことで周辺住民の理解が高まってきている。
- 今後においてはこれまでの効果が出始めているSky Plaza MISAWAの事業展開をより活発にし、当市の特色である国際色をテーマにした魅力の創出を図り、地域づくり団体や地域商業者との連携のもと官民一体となって当該地域の魅力発信を積極的に行い、賑わいのある市街地地域の形成を推進したいと考えている。

## ③「居住人口」について

以下の理由により、数値目標の達成は困難であると見込まれる。

- 土地区画整理事業を契機に事業を廃止した事業者による店舗の貸店舗化、住宅兼店舗だったものを店舗のみとする営業形態の変化、地域内における貸家の減少といった理由による想定外の人口流出が生じたため。
- 市立三沢病院移転跡地利用に係る事業の進捗状況に遅れが生じているほか、当初予定されていた公営住宅の建設や民間事業者による賃貸住宅の建設とは異なる内容で事業が進められているため。

## 4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回と同じ。

## 5. 今後の対策

中心市街地拠点施設 Sky Plaza MISAWA は、まだ課題はあるものの期待されている役割を果たしつつあることから、今後においてもより一層中心市街地での賑わいを創出するものと見込まれる。また、地域雇用創造推進事業を実施することで、まちづくりを担う人材育成の面にも効果が出たことから、この勢いを活かすため、各団体を有機的に結び付けていく必要がある。

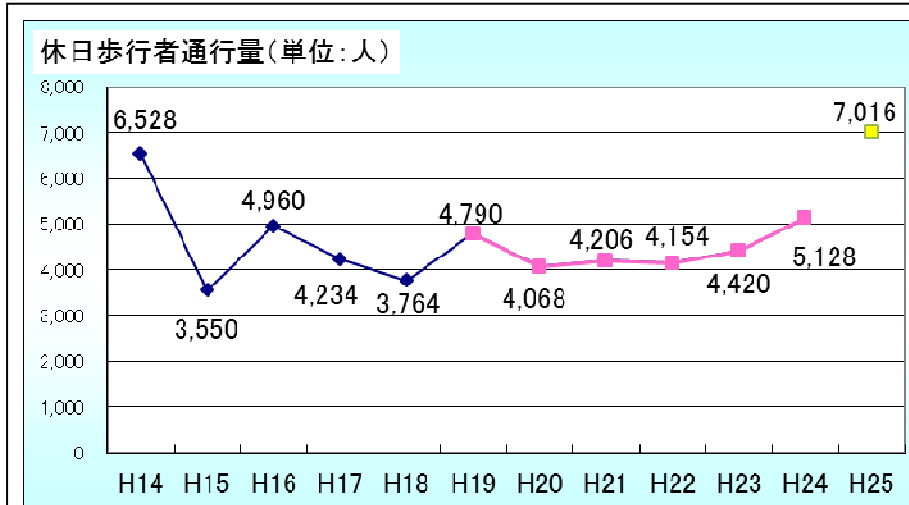
地域商店街との連携は、取り組んではいるものの不十分である。平成 25 年度においても、引き続きタウンマネージャーを招聘し、協働体制の構築に向けて取り組むこととしている。

三沢市立三沢病院跡地の活用については、様々な要因により事業が大幅に遅れてしまったが、平成 25 年度中に施設の一部オープンを目指している。計画期間は平成 25 年 10 月であることから、少しでも早い効果発現を目指すこととしている。

## Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地」

「休日歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P53～P55 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(人)
H17	4,234 (基準年値)
H18	3,764
H19	4,790
H20	4,068
H21	4,206
H22	4,154
H23	4,420
H24	5,128
H25	7,016 (目標値)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度 8 月実施）

※調査月；平成 24 年 8 月実施、9 月取りまとめ

※調査主体；三沢市商工会

※調査対象；中心市街地 12 地点の休日歩行者通行量

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. Sky Plaza MISAWA 整備事業（スカイプラザミサワ(株)）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	中央町地区都市再生土地区画整理事業(アメリカ村整備)区域における当市の国際色豊かな個性を活かしたアメリカ村のシンボリック集客拠点、市内外の既存観光・集客施設との連携による広域観光拠点及び米国人等との国際交流拠点として機能する中心市街地の賑わい商業交流拠点整備
事業効果又は進捗状況	平成 24 年度においては、直営部分が大きな成果を上げ、市内外からの集客に大きく貢献した。また、集客イベントを多数実施するなど、中心市街地における集客拠点施設として機能し始めており、今後においても市や市内経済団体と密接に連携して、中心市街地におけるにぎわい創出を図ることとしている。

#### ②. 大通り地区集客拠点施設整備事業（大通り商店会街づくり委員会）

事業完了時期	【未】平成 22 年度
事業概要	中央町地区都市再生土地区画整理事業(アメリカ村整備)により集約された空き地への拠点施設整備
事業効果又は進捗状況	平成 21 年度において国庫補助採択を目指していたが、当初計画していた“街の駅”機能が Sky Plaza MISAWA に配置されるなど、周辺環境の変化により補助事業採択が困難となった。現在、実効性のある代替プランを検討中である。

③. アメリカ広場でのまつり・イベントによる賑わいづくり（三沢市・三沢市商工会・各種実行委員会）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	中央町地区都市再生土地地区画整理事業(アメリカ村整備)区域内に整備されたアメリカ広場を会場としたまつり・イベント等のソフト事業及び新規集客イベント等の企画運営
事業効果又は進捗状況	平成24年度においても、引き続き多くのイベントがアメリカ広場において開催された。市や商工会はもちろん、スカイプラザミサワ株式会社や市民団体による新規イベントも多数開催され、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与した。

④. ふれあいオレンジ広場イベント事業（三沢市商工会・大町商店会・銀座商店会）

事業完了時期	【実施中】平成20年度～
事業概要	中心商店街西端に整備されたふれあいオレンジ広場での商業活性化イベントの実施
事業効果又は進捗状況	ふれあいオレンジ広場は、みさわ七夕まつりやハロウィンフェスタなどの特設ステージ会場として機能し、メイン会場となったアメリカ広場との相乗効果により、商店街全体に及ぶバランスのとれた集客が図られ、中心市街地の賑わい創出に寄与した。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成24年度においては、平成23年度に引き続きタウンマネージャーを招聘し、三沢市や三沢市商工会をはじめとする市内経済団体との連携により、集客拠点施設 Sky Plaza MISAWA を核とした中心市街地におけるにぎわい創出に取り組んだ。Sky Plaza MISAWA が開始した輸入食品、輸入雑貨の販売店舗は国際色を愉しめる店舗として好評を博し、市内はもとより市外からの誘客にも非常に効果があった。そのほか、中心商店街と協力して誘客イベントを多数開催するなど、中心市街地での協力体制の構築についても前進し、Sky Plaza MISAWA が中心市街地の集客拠点施設として賑わいの創出に大きく寄与した。

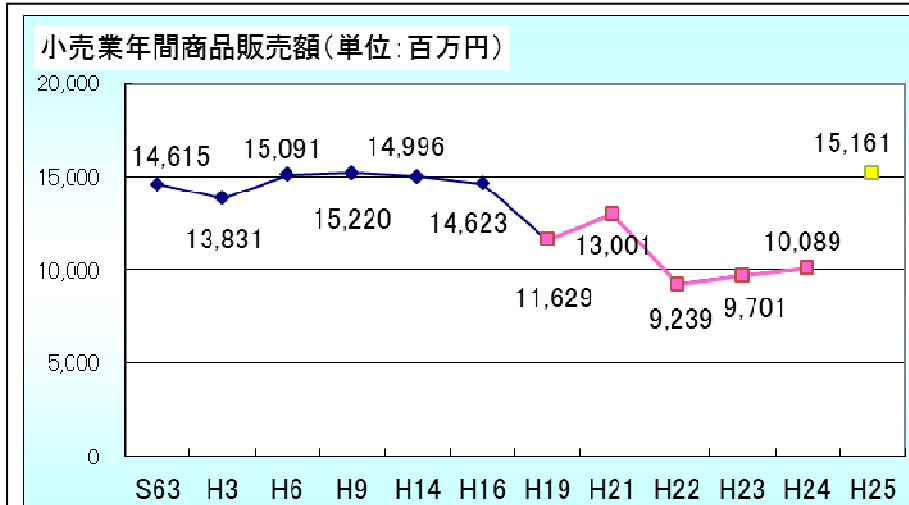
更に、厚生労働省の委託事業である「地域雇用創造推進事業」において、まちづくりを担う人材の育成事業を実施した結果、新たな市民団体が立ち上がり、新規イベントが企画・実施されるなど、まちづくりへの気運が高まった。今後においては、これらの動きを有機的に結び付け、魅力ある中心市街地の形成を図ることとしている。

以上のことから、数値目標の達成は可能であるものと考えており、残された期間内においても目標達成に向け全力で取り組むこととしている。

## II. 目標毎のフォローアップ結果「国際色を愉しめる賑わいあふれる中心市街地」

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P56～P57 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(百万円)
H16	14,623 (基準年値)
H19	11,629
H21	13,001
H22	9,239
H23	9,701
H24	10,089
H25	15,161 (目標値)

※調査方法；平成 24 年度中心市街地商店街区の小売業店舗年間商品販売額三沢市商工会の調査

※調査月；平成 25 年 2 月～3 月で調査 4 月取りまとめ

※調査主体；三沢市商工会

※調査対象；中心市街地商店街区の小売業店舗年間商品販売額

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. Sky Plaza MISAWA 整備事業（スカイプラザミサワ(株)）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	【再掲】P3 参照
事業効果又は進捗状況	<p>輸入食品・輸入雑貨を取り扱う店舗のテスト営業開始や、店内レイアウトの刷新、日米保育園の開設等の取り組みにより、施設内には常時一定程度の賑わいが見られるようになった。また、施設内において多くのミニイベントを開催するなど、中心市街地への集客及びSky Plaza MISAWAの周知につながる活動に積極的に取り組んできた。</p> <p>平成 24 年度においても、更なる店舗改善や集客促進に取り組むほか、2 階部分のテナント誘致にも注力し、更なる集客力向上に向けて取り組むこととしている。</p>

#### ②. 大通り地区集客拠点施設整備事業（みさわ大通り街の駅(株)）【再掲】 P 3 参照

#### ③. アメリカ広場でのもつり・イベントによる賑わいづくり (三沢市・三沢市商工会・各種実行委員会) 【再掲】 P 4 参照

#### ④. ふれあいオレンジ広場イベント事業（三沢市商工会・大町商店会・銀座商店会） 【再掲】 P 4 参照

### ⑤. 大規模小売店舗立地法の特例区域の設定の要請（三沢市）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	大規模小売店舗立地法の手続きを適用除外とする「第一種特例区域」及び手続きを緩和する「第二種特例区域」の設定について、青森県への要請を実施
事業効果又は進捗状況	平成 21 年 9 月に青森県に対して「第一種特例区域」及び「第二種特例区域」の指定について要請し、同年 12 月に県から区域指定の公告がなされたことにより、既存の大型店は「第一種特例区域」として大規模小売店舗立地法手続適用除外が図られることになったほか、Sky Plaza MISAWA は「第二種特例区域」の指定により、同法に係る手続きの緩和が図られ、同月に一部開業が可能となった。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の集客拠点施設 Sky Plaza MISAWA は、平成 23 年度より輸入食品や輸入雑貨を扱った、国際色を愉しめる店舗づくりを推進している。平成 24 年度においては、随時店舗レイアウトや品揃えを見直すことで集客力の維持・向上を図るとともに、多様なメディアでの広報活動や集客イベントを積極的に行った。その結果、売り上げは着実に伸び続けており、今後においてもより一層成果を挙げるための努力を継続していくこととしている。

また、平成 24 年度より厚生労働省の委託事業である「地域雇用創造事業」を実施しており、経営手法や販売力強化、新商品開発などをテーマとしたセミナーを多数開催し、既存事業者の経営支援を図ったところである。

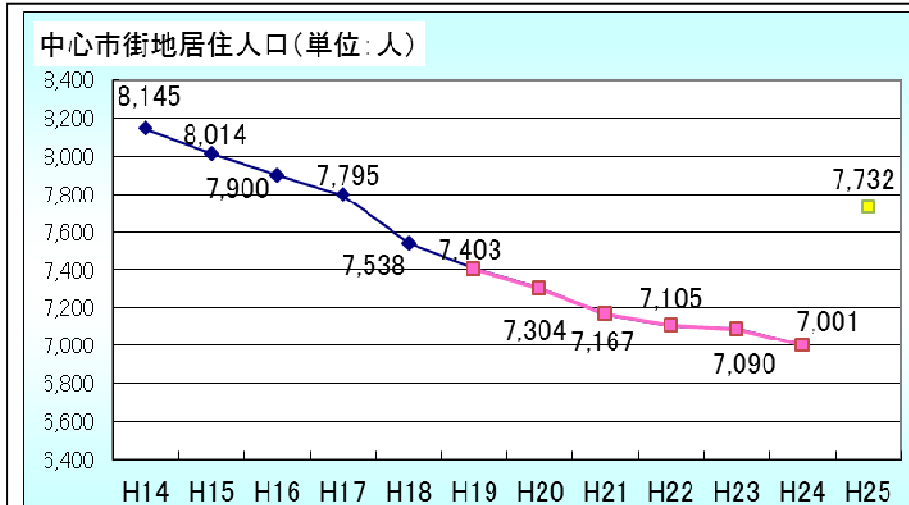
さらに、平成 24 年度はより広い範囲での活性化効果発現を図るため、中心市街地のイベント広場である「ビードルドーム」において新たに『食』をテーマにしたイベントを実施し、周辺の商業地区への集客を図った。これまで継続して開催してきた定期市も周辺住民に定着しつつあり、来場者数は前年度に比べて約 27% の増加となるなど一定の効果が表れ始めていると認識している。

これらの取り組みは、今後においても引き続き実施していくこととしていることから、限りなく高いハードルではあるものの数値目標の達成は可能であるものと考えており、引き続き最大限努力していくこととしている。

## Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果「安心して生活し続けられる中心市街地」

「中心市街地居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P57～P58 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	7,538 (基準年値)
H19	7,403
H20	7,304
H21	7,167
H22	7,105
H23	7,090
H24	7,001
H25	7,732 (目標値)

※調査方法；中心市街地区域での三沢市住民基本台帳登録人口

※調査月；平成24年8月末時点調査、9月取りまとめ

※調査主体；三沢市

※調査対象；中心市街地居住人口

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 街なか医療・福祉・介護施設整備事業(事業主体:医療法人財団 青仁会)

事業完了時期	【未】平成25年度
事業概要	市立三沢病院移転跡地への診療所やグループホームなど医療・福祉・介護施設の整備
事業効果又は進捗状況	当事業については、事業主体の決定やその後の調整に予想以上の時間がかかってしまったため、事業の進捗は大幅に遅れている。 平成24年度において、施設建設が着工したことから、事業者との調整を密に行い、可能な限り早期の効果発現を目指すこととしている。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

三沢市立三沢病院跡地の活用による街なか居住推進のための関連事業は、事業主体の決定やその後の調整に時間がかかったため、事業の進捗は大幅に遅れている。平成24年度において施設整備が着工したことから、事業者との調整を密に行い、迅速な事業の完遂及び効果発現を目指すこととしている。

市としても街なか居住の推進を図るため、市の単独事業である「住宅・空き店舗新築リフォーム支援事業」を拡大実施するなどしているところである。当該事業は一般住宅の新築及びリフォームのみを対象として平成22年度から実施しているが、段階的に補助要件の緩和や事業対象の拡大を図り、平成24年度から空店舗改装に係るメニューを追加するなど中心市街地活性化に資するための体制強化を図ってきたところである。

しかしながら、三沢市立三沢病院跡地に係る市の土地利用計画では、公営住宅の整備、民間事

業者による賃貸共同住宅の建設を予定していたが、審査委員会による審査の結果、高齢者専用住宅やスーパーマーケット等の複合施設の建設という事業案が採用されたことから、本事業により見込まれる居住人口の増加見込みは310人から56人に減少しており、これらの変更を踏まえて今後を見通したとき、数値目標の達成は非常に困難であるものと見込まれる。

平成25年度においては、新たなソフト事業を検討するなど、目標の達成に少しでも近づけるための努力を続けていくこととしている。